



2024年8月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2024年1月9日

上場会社名 日本BS放送株式会社 上場取引所 東
コード番号 9414 URL <https://www.bs11.jp>
代表者(役職名) 代表取締役社長 社長執行役員 (氏名) 近藤 和行
問合せ先責任者(役職名) 取締役 執行役員 (氏名) 阿久井 香織 (TEL) 03(3518)1900
四半期報告書提出予定日 2024年1月11日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第1四半期の連結業績(2023年9月1日~2023年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第1四半期	2,954	△2.8	377	△38.9	378	△38.6	248	△40.7
2023年8月期第1四半期	3,039	△0.0	617	△12.4	617	△12.4	418	△10.2

(注) 包括利益 2024年8月期第1四半期 248百万円(△40.7%) 2023年8月期第1四半期 418百万円(△10.2%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2024年8月期第1四半期	13	94	13	92
2023年8月期第1四半期	23	52	23	49

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年8月期第1四半期	24,444	22,391	91.5
2023年8月期	24,756	22,606	91.2

(参考) 自己資本 2024年8月期第1四半期 22,373百万円 2023年8月期 22,581百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭
2023年8月期	—	0.00	—	26.00	26.00	—
2024年8月期	—	—	—	—	—	—
2024年8月期(予想)	—	0.00	—	30.00	30.00	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年8月期の連結業績予想(2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	5,982	△1.0	826	△25.6	826	△25.6	570	△24.6	32	01
通期	12,600	1.5	1,910	△3.7	1,910	△5.2	1,318	△4.9	74	01

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2024年8月期1Q	17,816,932株	2023年8月期	17,809,632株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2024年8月期1Q	237株	2023年8月期	237株
------------	------	----------	------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年8月期1Q	17,810,598株	2023年8月期1Q	17,804,818株
------------	-------------	------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社グループとして約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気は一部足踏みもみられますが緩やかに回復しております。一方、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念、海外景気の下振れや物価上昇等が我が国における景気の下振れリスクとなっており、引き続き金融資本市場の変動等の影響を注視する必要があります。

当社を取り巻くBSデジタル放送業界は、動画配信サービス市場の拡大等で、ビジネスの機会が拡大する等、環境が大きく変化しております。なお、テレビメディア広告費は、1兆8,019億円（前年比98.0%）となり、そのうち当社を含む衛星放送メディア関連の広告費は、1,251億円（前年比103.5%）となっております。（「2022年日本の広告費」(株)電通調べ）

このような状況下、当社は「質の高い情報を提供することで人々に感動を与え 幸せな社会づくりに貢献します」を経営理念として中長期的な成長を実現するため、コンテンツの価値最大化を目指しております。放送事業収入だけではなく、配信ビジネスやイベントの実施といった放送周辺事業の強化にも取り組みました。

[レギュラー番組]

10月の番組改編では、既にご好評いただいております『中山秀征の楽しく1万歩！小京都日和』を『中山秀征の楽しく1万歩！街道びより』としてリニューアルし、放送開始いたしました。更に、放送9年目に突入した『アニゲー☆イレブン！』では4代目MCとして声優の前田佳織里さんが就任。スタジオセットもリニューアルしてアニメ・ゲーム等のエンターテインメント情報をお届けしております。また報道番組では、『報道ライブ インサイドOUT』の第2、第4金曜日に新キャスターとしてジャーナリストの太田昌克さんを迎え、世界的視点で様々なテーマをお届けしております。『ディスカバリー傑作選』では、『名車再生！』『探検家クラブ～偉人たちの大冒険』等、様々なジャンルのコンテンツを厳選し放送しております。

また、コラボレーション施策として(株)U-NEXTと協業し、スポーツ情報番組『ワールドスポーツCLIP! Supported by U-NEXT』を共同制作しているほか、ドラマ枠「韓流セレクション Supported by U-NEXT」を新設し、第1弾として韓国ドラマ『模範刑事』を放送し、コンテンツの拡充に努めております。

そのほか、中国時代劇『長歌行』や、向田邦子×石井ふく子ドラマ『花嫁』、ヨーロッパミステリー『アストリッドとラファエル 文書係の事件録 シーズン1』等、ドラマジャンルの拡充にも努め、曜日ごとにテーマを変えた編成枠を設置し、より視聴しやすい番組編成へと変更いたしました。

[特別番組]

レギュラー番組のほかにも、幅広いジャンルの特別番組を制作・放送し、セールスの強化を図りました。新規の特別番組としては、ライブの模様を当社独占放送でお届けした『江口洋介 35周年記念ライブ BE HERE NOW ~35th Anniversary~Yosuke Eguchi LIVE 2023』や、昭和の大スター・三波春夫さんの素顔に迫った『三波春夫あなたに逢いたい～初めて語られる昭和スターの素顔～』、保護猫活動に尽力する人々を追ったドキュメンタリー『吾輩は猫と生きるものである』等をお届けいたしました。また、地方局とのコラボレーション施策として、毎年恒例の『京都紅葉生中継2023～秋を彩る食物語～』を放送したほか、『BSイレブン競馬中継』と(株)京都放送の人気競馬番組『うまDOKI』では、レギュラー出演者がそれぞれの番組に相互出演する等、新たな試みにも取り組みました。このほか、昨年もお届けいたしました『WBSC U-18 ベースボールワールドカップ2023』や『2023年度 全日本学生柔道体重別選手権大会』、『BS11ソフトボール中継 JDリーグ2023』といった各種スポーツコンテンツの特別番組も引き続き放送いたしました。

[アニメ関連事業]

「ANIME+」枠では、製作委員会参画作品を含むアニメ関連番組を、毎クール約40タイトル放送しております。このほか、「アニメプラス」枠では「BS11ガンダムアワー」と題し、『機動戦士ガンダムSEED HDリマスター版』、続編となる『機動戦士ガンダムSEED DESTINY HDリマスター版』を放送しました。加えて、アニメソング番組『Anison Days』、4代目MCを迎えリニューアルしたエンターテインメント情報番組『アニゲー☆イレブン!』等、幅広い年齢層のファンのニーズにお応えできるよう、様々な切り口でアニメ関連番組を放送しております。

また、10月に徳島県徳島市で開催された『マチ★アソビvol.27』や11月に福岡県北九州市で開催された『北九州ポップカルチャーフェスティバル2023』等のイベントへ出展し、アニメ番組の放送のみならず、イベント事業をはじめとした幅広い活動を実施いたしました。

[配信コンテンツ]

当期の重点施策である「放送周辺事業の強化と発展」を目的とし、自社制作番組及び関連コンテンツのネット配信強化を行いました。

当社独自の動画配信サイトBS11+（プラス）では、9月に特別番組として放送した『江口洋介 35周年記念ライブ BE HERE NOW ～35th Anniversary～Yosuke Eguchi LIVE 2023』をディレクターズカット版として配信。プロ格闘技イベント『QUINTET』の第3回大会の模様を期間限定配信したほか、新たなコンテンツとして、心地よい音楽と美しい映像で綴る音楽番組『Healing Music hour』の配信も行いました。また、『如意芳霏（によいほうひ）～夢紡ぐ恋の道～』をはじめとした中国時代劇・韓国ドラマ等のドラマコンテンツも引き続き配信しております。

BS11公式YouTubeでは、2023年日本民間放送連盟賞 番組部門テレビドラマで優秀賞を受賞した、BS11開局15周年スペシャルドラマ『恋は50を過ぎてから』の無料配信を期間限定で実施。また前期に引き続き、放送では紹介できなかったエピソードやアフタートーク満載の番組派生コンテンツ『偉人・敗北からの教訓・こぼれ囁』を配信しているほか、グループ会社である㈱国土社の児童書を映像化した『歌で聴く絵本「ようかいむら」シリーズ』や、アニメジャンルからは、㈱文化放送のインターネットラジオ「超！A&G+」とのコラボ企画『ワールドダイスター RADIO☆わらじ』も配信しております。

そのほかにもTVer、U-NEXT、FOD、FANYチャンネル、ビデオマーケット等、外部プラットフォームでの配信も充実させ、より多くの方々にBS11のコンテンツを視聴していただけるよう配信事業の拡大に努めてまいります。

[その他事業・マルチ展開施策等]

その他事業としては、自社制作番組や、配信オリジナルコンテンツ等の関連イベントの開催や番組関連グッズのネット販売等、様々な施策に取り組んでおります。

自社制作番組関連イベントでは、4月よりレギュラー放送が復活した人気番組『太田和彦のふらり旅 新・居酒屋百選』の初の有観客イベントを開催。このイベントは「太田和彦×松尾貴史 居酒屋を語る！～居酒屋番組の先駆者と酒場好き俳優のトークライブ～」と題し、太田和彦さんとゲストの松尾貴史さんが、酒場エピソードの披露や、イベント参加者からの質問コーナーの実施等、大変盛況となるとともに、イベント終了後にはグッズ販売、サイン会等も実施いたしました。また、配信オリジナルコンテンツ関連イベントとしては、11月に東京ビッグサイトにて行われた「TOKYO『食』サミット」において、『ボクの即興ごはん～竹財輝之助のひとりキッチン～』の初の公開収録を実施いたしました。こうした関連イベント施策は、視聴者とのタッチポイントとして、大きな宣伝施策の一つともなりました。

また、上記の新施策に加え、毎回ご好評いただいております人気ピアニストと注目のヴォーカル・ユニットによるコンサート「貴公子たちの音楽会」も10月に開催いたしました。第3弾となる今回は、初めて東京を飛び出し、愛知県・博物館明治村内の帝国ホテル中央玄関よりお届けし、会場だけでなく、配信でも多くの方にお楽しみいただきました。

今期も放送に加え、配信、その他事業等を通して幅広いニーズに応えることができるよう、努めてまいります。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,954,507千円（前年同期比2.8%減少）となりました。営業利益は377,513千円（前年同期比38.9%減少）、経常利益は378,861千円（前年同期比38.6%減少）、親会社株主に帰属する四半期純利益は248,294千円（前年同期比40.7%減少）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ311,759千円減少し、24,444,780千円（前連結会計年度末比1.3%減少）となりました。主な要因は、棚卸資産が65,355千円増加したものの、受取手形及び売掛金が167,971千円、流動資産のその他に含めて表示している未収消費税が52,916千円とそれぞれ減少したことに加え、有形固定資産の減価償却が進み、建物及び構築物（純額）が26,399千円、有形固定資産その他（純額）が113,789千円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ97,016千円減少し、2,053,168千円（前連結会計年度末比4.5%減少）となりました。主な要因は買掛金が83,709千円、流動負債のその他に含めて表示している未払費用が40,255千円、賞与引当金が17,746千円とそれぞれ増加したものの、流動負債のその他に含めて表示している未払金が140,555千円、未払法人税等が90,159千円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ214,742千円減少し、22,391,611千円（前連結会計年度末比0.9%減少）となりました。主な要因は、利益剰余金が、親会社株主に帰属する四半期純利益248,294千円の計上により増加したものの、前連結会計年度の期末配当463,044千円により減少したことに伴い214,750千円減少したこと等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年8月期の連結業績予想につきましては、2023年10月5日付の「2023年8月期 決算短信」で公表しました連結業績予想から変更ありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,599,917	13,575,946
受取手形及び売掛金	2,325,022	2,157,051
棚卸資産	526,429	591,785
その他	218,399	147,986
流動資産合計	16,669,770	16,472,769
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,226,406	2,200,007
土地	4,034,756	4,034,756
その他(純額)	1,369,400	1,255,610
有形固定資産合計	7,630,563	7,490,374
無形固定資産	75,296	68,902
投資その他の資産	380,908	412,733
固定資産合計	8,086,769	7,972,010
資産合計	24,756,539	24,444,780
負債の部		
流動負債		
買掛金	696,741	780,450
短期借入金	100,000	100,000
未払法人税等	268,817	178,658
その他	953,034	863,149
流動負債合計	2,018,593	1,922,258
固定負債		
退職給付に係る負債	108,789	108,505
その他	22,801	22,404
固定負債合計	131,590	130,909
負債合計	2,150,184	2,053,168
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,186,990	4,190,714
資本剰余金	3,520,780	3,524,504
利益剰余金	14,873,521	14,658,770
自己株式	△234	△234
株主資本合計	22,581,057	22,373,755
新株予約権	25,297	17,856
純資産合計	22,606,354	22,391,611
負債純資産合計	24,756,539	24,444,780

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2022年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年9月1日 至2023年11月30日)
売上高	3,039,850	2,954,507
売上原価	1,495,513	1,629,016
売上総利益	1,544,336	1,325,490
販売費及び一般管理費	926,389	947,977
営業利益	617,947	377,513
営業外収益		
受取利息	0	0
その他	385	1,542
営業外収益合計	386	1,543
営業外費用		
支払利息	1,029	195
その他	19	—
営業外費用合計	1,049	195
経常利益	617,284	378,861
税金等調整前四半期純利益	617,284	378,861
法人税、住民税及び事業税	202,208	159,040
法人税等調整額	△3,657	△28,474
法人税等合計	198,550	130,566
四半期純利益	418,733	248,294
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	418,733	248,294

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2022年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2023年9月1日 至2023年11月30日)
四半期純利益	418,733	248,294
四半期包括利益	418,733	248,294
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	418,733	248,294
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。